

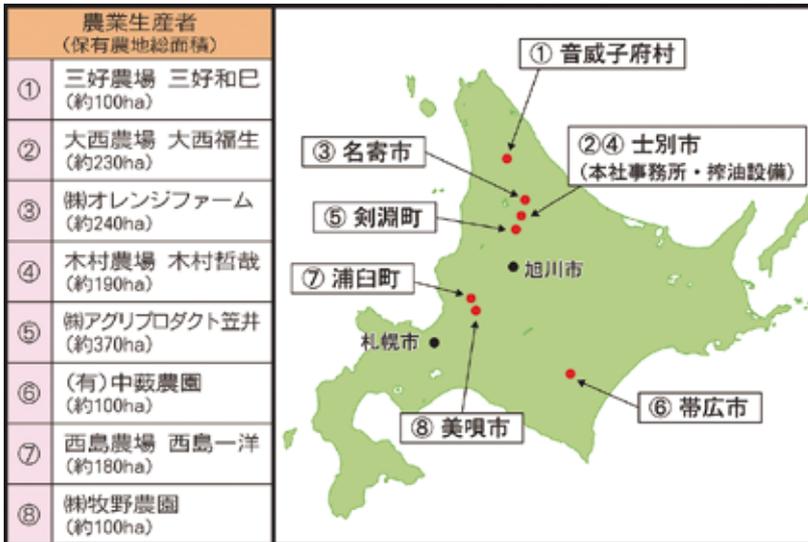
# 持続可能な農業を目指し生産者が広域連携

## 合同会社OMEGAファーマーズの取り組み

### 農業者等が広域連携し 農業法人を設立

後継者不足や農産品流通のグローバル化などを背景に、農業を取り巻く環境が厳しさを増している。国内における食の供給基地として重要な役割を担う北海道も例外ではない。こうした中、道内では、持続可能な農業経営を目指す動きが活発化している。その一つが、士別市に拠点を構える農業法人「合同会社OMEGAファーマーズ」(以下、同社)の取り組みだ。

同社は2019年5月、道北エリアを中心に広域に点在する8農業生産者など12人(社)が出資者(社員)となり共同で設立された(図表)。各生産者は100〜300haの農地を保有し、



▲図表 8農業生産者の分布地図  
(出所) (同)OMEGAファーマーズの提供資料を基に道銀地域総合研究所作成



▲写真1 菜の花畑の様子(士別市内、5月下旬) (写真提供:いずれも(同)OMEGAファーマーズ)



▲写真2 商品のラインアップ(ブランド名:「Oil DO(オイルドゥ)」)

ソバ、大豆、小麦、亜麻あまなど様々な作物を栽培(写真1)。道内の中でも大規模かつ先進的な農業を實踐していることに加え、先行きに対する共通の危機感のもと、連携して6次産業化(※1)に取り組んでいる。

(※1)農林漁業者が生産(第1次産業)だけでなく、加工(第2次産業)、流通・販売(第3次産業)にも同時に取り組むこと(1×2×3〓6)。生産者の所得向上や地域経済の活性化につながることを期待される。

## 道産作物から高付加価値の食用油を製造

同社の主たる事業内容は、農産物を原料とする食用油の製造・加工・販売。8農民生産者が栽培した「亜麻」「荳胡麻えじま」「菜種なたね」を同社が買い取り(対象面積合計:約250ha)、その種子から搾油し商品化している。亜麻仁油・荳胡麻油には「α-リノレン酸(オメガ3系脂肪酸)」が、また、菜種油には「オレイン酸(オメガ9系脂肪酸)」が多く含まれており、前者(体内で作り出すことができないため食事等での摂取が必要)は代謝改善、血栓予防、後者は動脈硬化予防、高血圧予防等の効果が期待されている。健康志

向が高まる中、これらの食用油に対する需要が拡大している点にも着目したというわけだ(写真2)。

## 「ゴールドプレス製法」で量産品と差別化

搾油には、「ゴールドプレス製法(時間をかけて圧力を加えることで摩擦熱の発生を抑える製法)」を採用。急速に圧力をかける製法と比べて生産効率は落ちるものの、原料の栄養素が壊れにくく、かつ、風味も維持できるといった利点があり、量産品との差別化が図られている。また、国内で流通する搾油商品の殆んどに海外産原料が使われている中、国内産原料を使う商品に希少性があること、当社商品は純道産原料由来(北海道産ブランド)であること、なども大きなアピールポイントになっている(※2)。

なお、3種類の商品のうち「Oil DO オメガ3北海道産亜麻仁油」は2021年2月、「北のハイグレード食品2021」(魅力ある道産食品としてのトップランナーを選定する道主催の制度)に選定。北海道を代表する食品の一つとしてのお墨付きを得ている証と言えるだろう。



▲写真4 搾油設備が設置されている廃校施設



▲写真3 搾油設備

(※2) 亜麻や荏胡麻の場合、国内産原料の割合は1割にも満たず、かつ、その大半は同社に出資する生産農家が生産していると思われる。

## 廃校施設を活用し 地域活性化にも寄与

実は、同社の取り組みには、農業のビジネス化支援に力を入れている北海道銀行(以下、当行)が深く関与。きっかけは、収穫した搾油作物を大手食品メーカーに販売している一農家からの相談だった。「付加価値を高めるために自ら商品化したいがどうしたらよieldろうか」。そこで、道内農業が抱える共通課題の解決に向け当行は、加工・販売の仕組みづくりを提案。新設する農業法人への出資に加え、経営にも参画(代表社員等を派遣)するなど一歩踏み込んだ支援を行い、賛同を得た生産者と膝を交えて6次産業化の実現に取り組んでいる。なお、搾油設備と事務所には、廃校施設(士別市立武徳小学校体育館)とその敷地を活用(写真3、4)。同社構成員の一人が廃校施設の近隣で農業を営んでおり、また、当行が士別市と「地域創生に関する包括連携協定」を締結していることから市と交渉。

「企業立地に伴う有効活用は地域活性化へも大きく寄与する」と評価されている。

商品化2年目となった2021年度。道内外の百貨店・ホテル等向け卸売り、ネット販売、北海道物産展(首都圏開催)への出店、ふるさと納税返礼品(士別市)への採用などを通じ、販路は着実に広がっているようだ。今後は第2弾として、搾油以外の付加価値づくりを構想。中島代表は、「ネットワークを活かし、亜麻仁油・荏胡麻油を起点とした商品開発を目指す。それに伴い生産者の所得が向上すれば原料作物生産農家の増加にもつながるため、過疎地域でも新たなビジネスモデルを構築できる可能性がある」と道内農業への貢献をしっかりと視野に入れている。同社の取り組みが道内に広く浸透し、生産者の所得向上を通じて道内農業や地域経済の活性化につながっていくことが期待される。

(文責：株式会社道銀地域総合研究所)

黒瀧 隆司)

# 日本全国 県境・地域を越えた 「様々なビジネスニーズ」にお応えします！

このようなビジネスシーンでお困りではありませんか？



## 全国の地銀9行連携 「地域再生・活性化ネットワーク」について

経営基盤・営業エリアが異なる地銀9行が、様々な情報・ネットワークを相互に活用することで、地域経済の再生および活性化を図るために構築した広域連携です。

県境・地域を超えて活躍する(今後検討される)お客さまのビジネスニーズ等に対して、全国の各エリアをカバーする地域金融機関が連携・協力して対応していきます。

- ①複数の地方銀行による資金供給(シンジケートローン・協調融資等)
- ②他エリアの地方銀行のネットワーク情報を活用して、M&Aや事業承継における相手方情報をご提供
- ③ビジネスマッチング業務にかかる他エリアの地方銀行のお取引先等をご紹介します



- 【注意事項】**
- 本ネットワークは、協定書を締結した地方銀行9行の連携・協力に基づき運営されています。ご利用にあたり、お客さまのご要望・ニーズなど、必ずしもご期待にそえない場合がありますのでご了承ください。(個別具体的なソリューションのご提供を確約するものではありません。)
  - 本ネットワークのご利用を希望される場合は、お近くの取引銀行窓口までお気軽にご相談ください。(ご相談は無料です、但し、個別具体的なソリューションのご提供にあたっては、各銀行所定の手数料等がかかる場合があります。)